

愛媛の普通温州うんしゅうの代表格！「南柑4号」なんかん



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	12月下旬から1月中旬まで
特長	<small>なかにてうんしゅう</small> 中生温州と同様、コク（味の濃さ）の成分が高くなっています。
備考	愛媛県内の普通温州栽培面積の約5割を占める代表品種です。普通温州には、「南柑4号」のほか、「 <small>おおつ</small> 大津4号」、「ひめのか」などがあります。

2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

1924年以来数度にわたり愛媛県南部において村松春太郎氏（後に愛媛県南予柑橘分場の初代分場長に就任）が温州みかんの優良系統探索を行っていたところ、1926年に同県吉田町（現：宇和島市）の薬師寺惣市氏の園地で発見された系統を優秀であるとして、これを南予柑橘分場にちなみ「南柑4号」と命名しました。

※祖父母世代不明のため、3世代系譜図は省略